

令和3年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	58	学校名	県立取手第一高等学校			課 程	全日制			学校長名	國府田 稔					
教頭名	椎名 健司									事務長名	宇佐美 福美					
教職員数	教諭	54	養護教諭	1	常勤講師 養護助教諭	4	非常勤講師	5	実習教諭, 実習講師, 実習助手	5	事務職員	4	技術職員等	4	計	77
生徒数	小学科		1年		2年		3年		4年		合計		合計クラス数			
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	18			
	総合学科		123	117	98	139	118	117			339	373				

2 目指す学校像

・本校の校訓（至誠・醇厚・自彊）の精神を礎に、取一精神「力耕不吾欺(りきこうわれをあざむかず)」の涵養を図りながら、生徒が主体的に学ぶ力を育み、時代の変化やグローバル社会・高度情報化社会に対応できる能力と豊かな人間性の育成に努める。
 ・総合学科の特色を活かして主体的な学びを実践し、教職員の一致協力した学校運営の下、生徒一人一人に誠実に向き合い、多様な進路希望の実現と明るく活力ある学校づくりを目指す。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項 目	現 状 分 析	課 題
学習指導	選択分野に応じて、個性を重視した指導がなされている。学ぶことに対して受け身の姿勢が見られ、主体的に家庭学習に取り組む習慣が確立できていない生徒が多い。	ICT機器を活用し、理解を深め、興味関心や進路との関係性を意識させる質の高い授業を構築する。生徒自身が自らの学びを振り返る機会を設ける必要がある。
進路指導	総合学科として生徒が身に付けた様々な資質・能力及び資格を活かし、推薦入試や総合型選抜を利用した進学者が多い。	3年間の段階的な進路指導体制の構築と、個別面談の充実。生徒が行きたい学校に合格させるための方策、一般入試で合格できる学力を身につけさせる必要がある。
生徒指導	組織的・継続的な指導に挨拶指導、服装頭髪指導及び遅刻指導に力を入れてきた結果、基本的生活習慣が確立しつつある。心因的な理由による欠席や心の悩みを持つ生徒が増加傾向にある。	教育相談体制を充実させ、いじめ等の未然防止・早期発見早期対応をする。自分自身の行動について見つめ、考えることのできる自己指導能力を育成する必要がある。
特別活動	コロナ禍において様々な行事や部活動が制限された中でも、工夫を凝らして活動している。集団の中での存在感、達成感が得られている。ボランティア活動に自主的に参加する生徒が多い。	属する集団での課題を見つけ、自らが問題解決できるよう生徒の自発的な活動を促し、さらに主体性を伸ばしていく必要がある。

働き方改革	教員間のコミュニケーションが活発になったことで、業務の分担や軽減が図られ、効率的に業務をこなそうとする機運が高まってきている。	会議、委員会等の種類及び開催回数が多く、校務分掌や委員会の再編を一層進める必要がある。
-------	---	---

4 中期的目標

総合学科の特色を活かし、「産業社会と人間」の授業を核として、横断的・総合的な学習を行うことでキャリア教育の充実を図り、学びの満足度85%以上を目指す。 部活動、生徒会活動、ボランティア活動の活性化を図り、豊かな心で相手を思いやり、互いに個性を認めあえる人間関係の育成を図る。 情報教育と国際理解教育の充実を図り、グローバル社会に対応できる人材の育成を目指す。 校務分掌、委員会等の仕事内容を再編・整理し、会議の簡略化を図ることによって、効率の良い働き方を目指す。

5 本年度の重点目標

重 点 項 目	重 点 目 標
自ら課題を発見・設定し、ICT機器を積極的に活用し、解決に必要な知識及び技能を身に付けるための効果的な学習指導方法の確立を図る。	積極的にICT機器を活用し、主体的、対話的で深い学びの視点から、思考力・判断力・表現力の育成を目指した質の高い授業を研究し実践する。総合学科の特色を活かした分野別・系列別学習指導の徹底によって学力向上を図り、学習へのモチベーションを高める。また、生徒自身が自らの学びを振り返る機会を積極的に設ける。
総合学科の特色を活かし、生徒の興味関心を軸とした効果的な進路指導方法の工夫・改善を図る。	3年間の段階的な進路指導体制の構築と、きめ細かな個別面談を充実させる。生徒一人一人の希望進路の実現のため、課外・模試等のあり方を検討し、学年の進路指導の見直しを行う。
様々な状況に適応できる自己指導能力を育成するとともに、教育相談体制を一層充実させ、いじめ等の未然防止・早期発見早期対応に努める。	基本的生活習慣の確立を目指しつつ、人権教育や道徳の授業等によって生徒が自分や社会について考える機会をつくる。生徒の実態（不登校・特別支援・不適應等）に応じた援助についてチームで考え、学年、生徒指導部、教育相談部等関係者の連携を密にして生徒の課題解決を援助する。
他者と協働しつつ自己実現を図ろうとする態度を育成する。キャリアパスポートを作成し、自身の変容や成長を自己評価できるようにする。	属する集団での課題を見つけ、自らが問題解決できるよう生徒の自発的な活動をサポートする。主体性を持って部活動や学校行事への参加を促し、学校生活の活性化を図る。キャリアパスポートの作成にあたっては、教職員が対話的に関わり、生徒の個性を伸ばす指導へとつなげる。【部活動加入率70%】
教職員が、効率的な働き方を目指し、事務的な仕事を減らすことによって自己研鑽の時間を増やす。	教職員相互のコミュニケーションを積極的に行い、連携協力体制を強化し、教職員一丸となって信頼される学校づくりを目指す。自らの業務一つ一つについて、より効果的な方策を検討するとともに、業務の在り方についても見直しする機会を設ける。